

第7回地域福祉推進のための講演会 開催記録

1 概要

- (1) 日 時 平成25年9月15日（日）午後1時30分から午後5時15分まで
- (2) 場 所 長久手市役所西庁舎3階研修室
- (3) テーマ 「地域のつながりを育む 住民流福祉のすすめ ご近所パワーで助け合い起こし」
- (4) 講 師 木原 孝久氏（住民流福祉総合研究所）
- (5) 参加者 82名

2 開会 あいさつ（福祉課長）

本日は、足下の悪い中、参加いただきありがとうございます。日頃は福祉行政へのご協力ありがとうございます。本日は、7回目の講演会となり、埼玉県から木原先生にお越しいただき、講演と実習を行っていただく。市では、高齢者実態把握や災害時要援護者の登録を行い、支援対象者の名簿を整備しているが、民生委員の見守りなど、実際の支援の方策が課題である。今回の実習で支え合いマップを体験し、関心を持っていただくことが有効な処方箋であると期待している。

3 講 演「地域のつながりを育む 住民流福祉のすすめ～ご近所パワーで助け合い起こし～」

講 師：木原 孝久氏

- ・昨日は、マンション管理会社からの依頼で、講演をした。オートロックがあり安全だと思われるマンションだが、実際は効果がなく、住民同士の交流がないため、防犯のために助け合いが必要だと居住者の7割が回答している。
- ・四日市市では、元窃盗犯を講師に講演を行った。近所付き合いがしっかりできており、声かけができていたところでは、泥棒が侵入をあきらめると話があった。
- ・いつも講義では、あなたが要介護3・4・5になった折に、①施設入所、②入院、③息子の世話になる、④自分の家で過ごす、どれを選ぶかを参加者に聞いており、2、3年前から圧倒的に①施設入所を選ぶ人が増えた。50人のうち15人の割合。④家は減り、50人中10人の割合。しかし、介護力が低下し、家庭では、介護できる者はいない。

・積極的な①施設入所希望者は少なく、迷惑をかけたくないからと選ぶ消極的な理由が多い。男性は食事を作ることができないため、自分で何もしなくて良いからが選択理由。今後、施設入所の圧力は増えていくため、建設の圧力も強くなる。

○あなたの「おつき合い」の流儀は？（資料1 p.2）

《参加者に、10の質問に、「私もそう思う」と言えるものに○印を付けてもらう。》

- ・日本人のつきあいの意識についての質問で、7つから8つ○印がつく方が多い。
- ・「詮索」や「お節介」という言葉は、日本語の感覚では悪い意味。ほどほどの7～8つに○印がつく皆さんは常識人。このおつき合い程度では、助け合いができない。
- ・(1)～(4)の質問は困ったときにどうするかを聞いている。「助け合い＝迷惑をかけあうこと」。(5)～(8)の質問は助ける側のことを聞いている。助け合いはきれいごとではないことを、日本人は分かっていない。
- ・ある新聞の社説に、まずは迷惑をかけあうことがスタートと掲載され、うれしかった。

・東北大震災をきっかけに、地域の絆よりも、身内の絆を優先し、結婚、婚活活動が活発になった。

・50世帯単位で、マップを作製する。その中には4～5人の世話好きの方がおり、マップに関係している方々を結ぶ矢印を書き入れていくと矢印が少ない人が出てくるため、その人をマークすればよいことが分かる。

・人と人とのつながりは個人では分からない。地域はそれぞれ実は関係を持って繋がっている。みんなの情報を合わせることが大事。

・介護保険制度ができて、自助機能が衰弱し、公助だよりになった。サービス依存症であり、地域での活動がつまらないからデイサービスを受ける結果になってしまう。一回1,000円の自己負担額で済み、安いのが、実際は9,000円の公費負担をしており、相当額の負担となっている。

・サービスが入れ（＝公助の手に渡る）ば、周りは手を引いてしまうので、要介護者には線がつながらなくなってしまう。

・サロンは元気な人の集まりと区分され、デイの利用者と重ならない。

・厚労省はその人らしく、家で過ごすよう言っている。

○日本人のおつきあいを見つめ直してみよう

・孤立死は男性ばかり。「助けて」が言えず、息詰まって死ぬ。40～50代からが予備軍。

・介護殺人も4人のうち3人が男性。10年で約400件。男性は一生懸命介護し、息詰まってしまう。ある裁判では、地域に助けを求めることなど、夢にも思わなかったと発言があった。

・困った人がいたら、①頼まれなくてもお節介で助けるが23%、②頼まれたら助けるが72%、③断るが5%。日本人は助ける気持ちはあるので、「助けて」と言うことが必要。ずうずうしく助けてという人は、約3~5%。

・お節介をつぶさず、ご苦労様とお礼申し上げること、助けてと言うことが必要。

・イギリスのサッチャー元首相は、認知症を隠さず、リーダーとして堂々と生きた。

・アメリカの女子バスケットボールの監督が、アルツハイマーになりながら現役続行した。コーチを増やして対応した。

・例えば、民生委員が認知症になっても是非、現役続行して皆に希望を与えてほしい。

・ある地区で、家族に認知症がいるとチラシを配布したところ、うちにもいると多くの申し出があった。きっかけがあれば事は動くので、是非動いてみてはどうか。

・「助けられ上手」がいれば、周りのみんなが喜んで助ける。プライドを捨てること。

・長野県須坂市では、助けられ上手さんの表彰がある。当事者が主役である例。

・震災で被災者を助け出したのは 近隣住民が85%、レスキュー15%。近所はいろいろ知っており、近所では、事実上プライバシーは存在しない。

・向こう3軒両隣とは5世帯、10世帯が小ご近所、50世帯が近所。

・地域とはご近所のことだった。

・思いやる人が少なくなっている、ご苦労様と言う人。司令塔となる世話焼き役が求められている。

・この人なら言えると、当事者が選ぶ。助け合いは住民流である。

・当事者は、助けられすぎでお礼言うのにくたびれ、プライドはぼろぼろ。サービスされるばかりはだめで、誰かに何らかをする方になるようバランスをとることが重要。

○地域福祉推進学習用演習課題（資料2）

《「1. ご近所の住民の支え合いの実態」を、各自「2. ご近所の住民の支え合いマップ」に記載する作業を行った。約50分間グループごとに話し合いをし、「3. その人

の問題、こう解決したら？」に記入。班ごとに記載したペーパーを会場前に貼り、対象者ごとに各班で発表した。》

・このような実態は聞き取りしないと分からない生の声、実際にこれだけ聞き出すのは大変なことである。

①中村さん

要介護になり、サービスを受けると、老人クラブが受入れなくなる。介助ボランティアグループの活用の可能性。

④坪井さん

交流がないことと、毎日3度の食事が課題。本人はふれあい交流がないことは問題と感じていないので、サロンに誘っても無駄。サロンは万能ではない。中山、鈴木、宮本さんの畑の耕作を請け負い、収入確保をすること。社会のルールに乗り、持ちつ持たれつが基本。

③田中

デイサービスに行ったことで、サロンは受け付けなくなる。

⑩大久保

息子のことを考え、夜も眠れない。宮本、中山、鈴木さんの有償で畑の耕作を請け負う。

北海道旭川市では、障がい者が農地を手分けして、小遣いを得ている。地域授産である。

⑪大黒

鉢植えも困るが、大型犬も困る。石川、久保、三浦、森本の井戸端会議を大黒さんの家で水やりしながら開催する。

⑦小野

夜一人になるので、娘の働くグループホームに、ボランティア付添婦として連れて行けば経験も活かせるし、娘の目も届く。

・一番気にしなければならない人は誰か。

⑤今野さん

住み慣れた家や地域で安全に暮らすことが重要。家に帰すと、喜んで石川、久保、三浦、森本で介護する。今野家をお泊まりの家化する。

・50世帯単位でマップづくりすると、危ない人が4～5人出てくる。今野さんのような方を中心に、地域で人間らしく支える、行政にとってチャンス。

質疑応答

Q 相手は何を欲しているか。

A 乗るかどうか。人間論。つながりは、少しずつ。性格は変えられない。

Q 公的窓口はないのか。

A その人の持ち味を引き出し、地域で助けてあげることが必要。

発想の転換が必要です。

(以上)